

社会福祉法人育成会ビジョンについて

理事長 熊谷 繁治

今回の情報誌の発行に当たって、(社福)育成会の進むべき方向(目標)を明確にして、利用される皆さんやご父兄など、関係される方々のご理解、ご協力をいただきたいと思います。

概ねこれからの10年を目安に事業の展開を図る所存ですが、基本的な理念は「一人ひとりの個性を活かした、それぞれのライフステージにふさわしいサービスの提供」です。

それぞれの事業についての具体的な内容については、今後紙面を借りて詳しく説明をさせていただきますが、特に目新しいことではなく、すでに全国的に先進的な団体が手掛けているか、あるいは試みようとしているサービスです。

(社福)育成会はその成り立ちからしても、本人はもちろん保護者の期待を背負う法人として、今後も多くの皆さんの利用希望に応じて行く責任を担っております。

従って事業の展開も多岐にわたり、トータルな福祉のサービスが提供出来る事業者を目指すことになり、初代阿部理事長が悲願とした「ゆりかごから墓場まで」のきめ細かいサービスの実現に一歩近づくこととなります。

ただ、理想的な福祉環境の整備は当法人ひとりの力で出来ることではなく、先輩法人や熱心な事

業者との協調や役割分担を大事にしたいと考えます。また、行政との連携が重要です。積極的に新しい事業や制度の必要性を訴えていかねばなりません。

しかし、最も大事なことは、事業推進に当たっての内部の意志の統一です。大きな夢の実現に向けて、本人たちを中心に、関係者の結束と協力がなければ、残念ながら計画も絵に描いた餅に終わるでしょう。

「この子らを世の光」とするために、力を合わせて、ひと頑張りしようではありませんか。夢を共有し、育み、豊かな実りを目指しましょう。

— いわき学園新製品 —

峰丘デザイン アンコウグッズ アクアマリンにて販売開始

◆Tシャツ

サイズ(M・L・LL)の3種類
色は、白のみとなっています。
1枚 1,600円

◆ハンカチ

色は、青・黄色・黒の3色
となっています。
1枚 500円



いわき学園利用者
宗川 キヨ子

こんにちは、宗川キヨ子です。

私は昭和7年生まれの68歳です。いわき学園には、昭和52年からお世話になっています。今、学園で製袋作業をしています。毎日学園に行くのが楽しみです。これからも、みんなと仲よくがんばりたいです。



いわき学園職員
関川 暢江

毎日楽しく過ごし、自分らしく生きることを心がけています。スポーツは苦手なのですが、体を動かすことが好きということで、山登り、散歩へと出かけることがここ最近の趣味です。いつまでも覇気のある生活を送りたいと思っています。

社会福祉法人育成会ビジョン(理事長方針)

理念

障害を持つ人たちが、人としての尊厳を侵されることなく、自らの個性を活かしながらい市民として豊かな人生を全うできるように、全力をあげて支援する。

方針

一人ひとりの個性に合ったライフプランを作成し、それぞれのライフステージに則した環境(サービス)を提供していく。

中期ビジョン (2010年を目安)

社会活動

- 本人たちの会設立と支援の会の設立
- 街中活動拠点ホームの設立
- 資金づくり活動
(バザー、物品仕入れ販売活動など)

働く

- 授産所の生産部門の専門性を高める
(職場としての機能を充実)
- 市内に3～4カ所の授産・更生施設を配置する
(それぞれの専門性を持つ)
- 福祉工場の設置
(環境保全にかかわる仕事を目指す)
- 福祉的就労の場の創設
(小グループによる職場・喫茶店・売店など)
- 小規模創作施設の創設
(絵画、版画、織物、陶芸、音楽、舞踊など)

住む

- グループホームの推進
- 通勤寮の設置
- 福祉ホームの設置
- 高齢者ホームの設置

憩う

- ガイドヘルパー制度
(有償ボランティアシステム)
- 余暇活動クラブ
(施設設備の開放)
- 芸術活動の推進
(専門家ボランティアの協力)

暮らす

- 地域生活支援センターの設置
(地域ステーションをサテライトとして)
- 地域ステーション
(デイ・サービス、余暇活動、相談業務、宿泊施設)
- ボランティア活動センター
- ホームステイ制度の創設

福祉法豆知識

福祉が変わる!

育成会常務理事 木村 精治

社会福祉基礎構造改革とは、現行の各種福祉施策は戦後まもない時にできたものであるもので、時代おくれの仕組みだということでの改革といわれている。また一方では、国の財政破綻による福祉

見直しであるともいわれている。

いずれにせよ改革の基本となるところは、各種福祉制度を利用するにあたっては、自分で選び、決定し、契約することになり、すべて自己責任ということになる。

サービスの主体も行政から民間に移行するものが多くなる。老人福祉は介護保険制度により始まったが、障害者の関係は平成15年より実施される予定である。

タウンズビルに太鼓がひびく

いわき学園太鼓を海外に響かせる協力会

団 長 佐 川 健 一

「学園が太鼓でオーストラリアに行く!!」。その話を耳にしてから出発までの日々は、太鼓の演奏は、うまくいくのだろうか。現地の人達は太鼓にどんな反応を示すのだろうか。



そして何より、利用者の体力と気力は保てるのか。など緊張や不安が脳裏を駆け巡りました。

ところが、飛行機が無事着陸したことにほっとし、皆今までの生活から開放されたかのように満面の笑顔が至るところで見受けられました。

タウンズビルに着いてからの約1週間の経験では、太鼓の演奏はもちろんのこと、エンデバーファウンデーションの障害者との交流、それに初体験のホームステイと、皆にとっては緊張と驚きそして感激の連続でした。

その中で心に残ったことは、太鼓演奏のリズムが日に日に合ってきたことでした。4日間で10回以上演奏して、みんな筋肉痛になって疲労も徐々に溜まってきていたにもかかわらず、博物館での演奏は、心技一体となった素晴らしいものだったのではないかと思います。

また、ホストファミリーから受けた親切、現地のいろんな方々から教えられたことは数知れません。おかげで利用者、職員共々1週間楽しく生活できたことが、最後のさよならパーティで実感しました。

今回、太鼓を通して現地の方々と交流できたことは、利用者にとっても、職員にとっても、いろいろな意味で勉強になったと思います。ご支援いただいた皆様に心からお礼申し上げます。

なんでもご相談下さい

苦情処理機関設置

いわき学園主任事務員 山本裕之

4月1日より育成会に苦情解決委員会が設立されスタートしました。施設のサービスに対して、改善してほしい要望など、利用者や保護者の皆様の相談を幅広く受け、速やかに解決を図ることを目的としています。

苦情解決責任者として3施設の施設長があたりまた、6名の第三者委員が理事長より委嘱されております。より良いサービスの提供に向けて話し合い、誠実に対応取り組んでいきたいと思っておりますので、何か気づいた点がありましたら気軽に各施設の受付担当者までお申し出ください。



この機関の愛称を公募しております。
採用者には、すてきなプレゼントをさしあげます。
応募先：いわき学園 志賀まで
締切日：8月31日

三保護者会初の集い

いわき学園保護者会

会 長 小佐野 延勝

さる7月1日、育成会三施設の保護者会、園長、次長、そして法人理事長の熊谷氏の出席も頂いて、今後の法人施設のあり方について懇談会が開催されたことは、私たち保護者会にとっても一歩前進かと思えます。

私は、以前から三施設の皆様方との懇談会の開催があることが望ましいと思っていましたし、結果、感じたことは非常に親近感があり、気軽に3時間強の懇談ができ、利用者の自立支援、グループホームの推進などについての考え方の意見交換ができました。

また、近い時期に開催し、今後の会の持ち方について、あと一歩前進したいと思います。